

# 「健康住宅」というより 「食材住宅」の提案

～安心安全な食材を選ぶあなたに～



福井母乳育児相談室内“食材住宅”を考えるグループ

## 「食材住宅」ってなあに？

私たちが、安心・安全な食材にこだわるように、住宅も素材の産地や作り手が明確であることが大切です。つまり、食材選びと同じこだわりで住宅を考えよう、と「食材住宅」と名付けました。

## 食と同じ考えの「食材住宅」を目指しませんか！

「食材住宅」は建材≒食材という考え方です。昔は稲わら・柿渋・小麦粉など食べ物由来のものが、建材として使われてきました。こんな考え方を基本に持っていれば、本質から大きく外れることはないでしょう。

住宅は、からだ・衣類の次に私たちを包む“第三の皮膚”。食と衣にこだわっても、住にこだわらなければ健康に過ぎません。

## 福井母乳育児相談室 グループの歩み

1995年、阪神・淡路大震災直後の住宅の惨状や、野焼きによるダイオキシン発生の現実を目の当たりにして、「環境にも心にも身体にも優しい住宅を考えよう」と母乳育児相談室と建築士と建築工房の仲間たちが結集したグループです。1997年に「こころ・からだ・環境にやさしい手づくり健康住宅」を出版し、健康住宅の概念を市民運動に発展させ、活動を続けてきました。

「健康住宅」という言葉はここ10年で市民権を得、「我こそは健康住宅」と銘打っ

た建築会社が乱立しています。私たちはそれらと一線を画すために、2005年からは「食材住宅」という言葉を使っています。

これまでは福井母乳育児相談室に通う人たちの新築やリフォームを、いろいろな勉強会を重ねながら、一軒一軒ていねいに完成させてきました。「食材住宅」の優しさと心地よさを、それを本当に求める人に体験してほしいと願っています。

## おっばい先生が、 住宅づくりにこだわる理由

私は、1980年代からアトピーっ子の支援をしています。そこではアトピー症状を早く良くすることを目的にするのではなく、良くなる過程を大切にしています。このような支援方法に私がこだわるのは、実践しながらの学びが、その後の長い子育てに大いに役立つからです。苦勞した母親には体で納得した知識や工夫が身についています。

建築も全く同じ考えです。建てることだけが目標ではなく、建てていく過程にも力を注がなければ、満足のいく住宅づくりにはなりません。このようなこだわりの対応には、時間もエネルギーもかかります。「向き合う子育て」と同じなのです。「向き合う家づくり」ができるグループとして、今後もいつまでも学び続け、子どもたちの未来のためにお手伝いをしたいと考えています。

2007年4月22日

福井母乳育児相談室 福井早智子

# 建築例

設計・監理／荒木建築研究所

施工／力石建築工房、stack 他



2階、18畳の多目的空間。子供2人とお母さんの使い勝手で、将来の間仕切りに対応。クリのフローリングの温水床暖房。

屋根はカラーステンレス立てハゼ葺き、色モルタル引き摺り仕上げの外壁、目隠しと風通し機能の杉板大和塀は柿渋塗り。



プライバシーの確保の中庭、1階とのつながりと居間を広くするため、オープンな階段を南面に。2階廊下手すりは、布団干し場にも利用。





居間の南面に設けたオープンな、鉄骨と木の踏み板・手すりの階段。コンクリート蓄熱式床暖房にクリのフローリング、漆喰の壁。



ステンレスと木（タモ）で作ったキッチン。食洗機とコンロは希望の物を組込んでいます。



お母さんの希望のホーローシステムキッチン。食事コーナーと居間が見渡せる。漆喰壁に、タモ腰板張り、明かり採りの吹き抜けは、2階の雰囲気を感じられる。



洋瓦にモルタル引き摺り仕上げの外壁、堀。ロートアイアンの装飾を所々に設けています。



白いタイル貼りの浴室、床は炭化コルク。



書斎のロフトは、お父さんの隠れ家？



キッチンから食事室をのぞむ。



部屋の雰囲気に合わせて作ってもらった食卓とイス、作り付けのベンチ。



木のカウンターに陶器の洗面器をはめ込み、使い勝手を考えて、収納付き三面鏡を選ぶ。



ステンレスと松のキッチン。



平瓦に色モルタル引き摺り仕上げ。玄関廻りは、杉板壁に柿渋塗り。(1階なので、自分達でも塗り替えが出来る。)



家族の楽しみの野球。ボールのイメージの丸窓、ひいきチームのホームスタジアムのイメージのレンガ壁。表札はお母さんの手作り。



檜の浴槽。天井と壁に水に強い青森ヒバ。腰の市松模様は左官さん手持ちの御影石貼り。換気し易いように、上下に窓を設けています。



リフォームの玄関の階段は踏み板はそのまま、鍛冶屋さんの作ったロートアイアンの手すりが優しい雰囲気を出しています。

地盤が強い場合、地盤改良を施工。



# わたしたちの基本理念

## 1 建築士と工務店、2つの専門家のいる家づくりであること。

悪気はなくとも思い込みなどで誤ることがないように、2つの目でチェックすることです。さらに、アイデアは2倍以上豊富になります。

## 2 素材にも精通し、一般建材の問題点と解決策をわかりやすく提示できること。

例えばコンクリートにどれくらい添加物を入れているか知っていますか？ コンクリートの性能を高める目的で、合成界面活性剤が入っています。もちろんそれ以外にもいっぱいあります。食べものに添加物が入っているようなものです。ですから、アレルギー体質の人はコンクリートの打ちっぱなしがおしゃれ、と勧められてもやめておいた方がいいでしょう。

理解してなおかつコンクリートが好きな方は仕方ありませんが、説明がなされているかどうかが大切なのです。

## 3 カウンセラーの役目もできる建築士であること。

建材が健康素材ということだけではだめです。家づくりは、生き方・暮らし方の見直しです。

思いをじっくり話せることで、今までの

自分の生き方が整理でき、今後の暮らし方に前向きに取り組めるよう、パワーが出てくる話し合いを目指しています。聞き取りと整理の役目ができることが大切です。

## 4 建てながら、素材の良さを学ぶこと。

工務店は大切です。手間も時間もとりませんが、“第三の皮膚”にするには建物と人との一体感が大切です。つまり、建てながら一部家づくりに参加することにより、素材のいろいろを学ぶことができ、家を自分のものにすることができます。家が分身になるのです。

## 5 環境共生住宅づくりができること。


雨水利用・太陽光発電・屋上緑化など、できる範囲でいろいろ提言をしています。

木材のこともあります。いま盛んに使われているスギやヒノキ以外の、ナラやブナやクリなどの広葉樹をもっと活用し、日本の森林を元来の自然林に帰すことまで考えた建築をしていきたいと考えています。


広葉樹も含め日本の自然林からの木材の供給でも不足しないといえます。輸入材を使用する必要はないのです。子どもたちに良い環境を残してやるために、広い視野に立った住宅づくりをしたいものです。

兵庫県尼崎市場口本町1-20-7

[住宅についてのお問い合わせ]

 **06-6423-5250** (19:00~20:00)

[アトビー・母乳相談のお問い合わせ]

 **06-6426-1548** (10:00~17:00)

※休日は日・祝・水・木（変則あり）です